

A-130 大豆もやし生育に伴う酵素活性の変動と植物ホルモンの影響
大妻々大家政 長野宏子

目的 大豆に存在するペプチド、また、もやし生育中に二次的に生成されるペプチド等について大豆利用の観点から、その生理活性などを検討し報告して来た。
ここでは、これまでの植物ホルモン(2,4-D)の影響がアミノ酸、タンパク代謝に起因するとの立場からアミノ酸との縮合物の分離、酵素活性への影響...等について検討したので報告する。

方法 ①大豆を水および2,4-Dで生育し、これをアセトンで摩砕、可溶性部分について濃縮後、Sephadex, TLCにて分離した。②生育、未生育大豆もやしをクエン酸緩衝液で摩砕、遠沈し、粗酵素液とした。これを用いて protease をはじめ各種酵素活性への2,4-Dの影響について、*in vivo* および *in vitro* において検討した。

結果 ①2,4-Dとアミノ酸との縮合物を数種の展開液で展開しTLC上に確認した。
②proteaseをはじめ数種の酵素活性が2,4-Dにおいて阻害されるのが観察された。